

まえがき

どばーっと描いて！ どかーんと作って！ 子どもたちはものづくりを通して、自分の心の中にある純粋で好奇心に満ちあふれたエネルギーを思いっきり表現します。嬉しい気持ちや楽しい気持ち、時には悲しい気持ち、見たり触ったり匂ったりと五感で感じた驚きや発見、感動を「自分の力で表現したい、周りの人に自分の力で伝えたい」という希望を持っています。

しかし「近頃の子どもは変わってきた、想像力や表現力が乏しくなってきた」という言葉を聞くことがあります。便利な時代になればなるほど、その環境で育った子どもたちはそれに順応していきますが、いつの時代も子どもたちの持っているエネルギーや本来の生命力は変わりません。子どもたちの想像力は大人が思っている以上に宇宙のように広く、自分の力で何も無い0を100や1000へと膨らませながら表現していく力を生まれながらにして持っています。向上心のない子どもは一人もおらず、誰もが「自分でしたい」「自分らしく表現したい」という自立へのあこがれを強く持っています。

もしかすると、想像力や表現力が乏しくなっている原因は時代や便利な機械の環境ではなく、変わってきたのは私たち大人の方で、子どもたちが心の中のエネルギーをのびのびと思いつき解放できる自由な環境やチャンスを小さくしてしまっているのかもしれない。

ものづくりを通して、子どもたちは自分と向き合ったり、友達から刺激を受けたりする中で自主性や想像力、コミュニケーション力、観察力、表現力、集中力など、自分の力で生きていくためのありとあらゆる力を養っていきます。

これらの力は単にもものづくりの世界の話だけではなく、計算力や読解力、応用力や修正力などさまざまな分野にも結びつき、子どもたちが将来あらゆるシーンで活躍する力になります。とくに想像力の養いは自分以外のものを感じ取る力、相手の気持ちを自分に置き換え、想像して行動できる力などを養い、人間関係をより豊かなものにしてくれます。昨今のニュースを見ても、もっと相手の気持ちや状況、その先の展開を想像する力があれば防げた事件や事故もあるように思うのです。

私は2009年よりパイオニアとして、全国各地でジェルキャンドル体験をはじめとする子どものものづくり教室をテーマパークや百貨店、商業施設、行政や地域コミュニティ、各企業にて運営しています。関西での年間約340の教室では、日々子どもたちとともにものづくりに触れ合い、その自主的なものづくりの習慣の中で子どもたちが変わっていく瞬間をたくさん目の当たりにします。心を解放したもののづくりは確実に子どもの心を養っていくと感じています。

ただ、それを実らすのも枯らすのも、子どもの表現に対する周りの大人の考え方、関わり方がとても重要だと感じます。私自身も子どもの頃から絵や造形が大好きで、とくに保育園時代の先生の情熱と理解と共感との出会いが、その後の人生を豊かにしてくれたと実体験として感じています。子どもたちの持つ柔軟でイキイキとした感性を理解と共感と愛情をもって包み込み、キラキラした可能性をしつかり過保護して、子どもたちが自分の力で将来を羽ばたいていけるようお手伝いしていくのは私たち大人の大切な使命なのです。

本書は、子育てやしつけ、教育本ではなく、私がこれまでものづくりの現場で感じたことや

経験したことから「ものづくりは子どもの将来を決める」についてまとめてみました。

本書を読み終えたみなさんが改めて子どもに接するとき、子どもたちは自分の世界が昨日までとはまったく違ったものに感じ、さらに輝いた世界になっていくことでしょう。

子どもと一緒に大人もともに育っていきながら、子どもたちの将来がよりよいものになることを願うみなさんのお手伝いになればと願っています。